

低学年児童期の学習

～保護者のみなさまへ～



第6回

児童期に培った計算力は人生の宝物



これまで、小学校の低学年期までに培っておきたい能力として、「**読む力**」(第3回)と「**算数の感覚的素養**」(第4回)を取り上げてご説明しました。今回はその続編で、「**基礎計算力**」を取り上げてみようと思います。

中学受験を視野に入れておられるご家庭のお子さんは、基礎計算力の習得で難渋することはほとんどないと思います。このコラムをお読みの保護者も、わが子がこの段階で躓くとは思っておられないことでしょう。すでに小学校入学前から計算技能の習得に向けて取り組んでいるお子さんが多いでしょうから、そう思われるのも無理はありません。



しかしながら、弊社の高学年部門で中学受験対策をしているお子さんに、意外と**計算処理が不正確で遅いため、受験対策の学習に難渋している**ケースが散見されます。極端な例をあげると、**初歩的計算処理が苦手なために途中で指を折って数える**お子さんがいるという話を耳にし、「まさか!？」と驚いたことがあります。こういうお子さんが算数で高成績をあげるのはまず不可能です。高学年になると計算操作の学習も複雑になっていきます。「たかが計算」と思わず、丁寧かつ根気よく計算の学習に取り組んでいただきたいですね。

以下の引用文は、ある教育学者の著作にあったものです。小数の計算での躓きで娘さんが苦勞されたエピソードが紹介されています。

小数の割り算ができないというのは、計算での全般的理解の不足を象徴しています。というのは、小数の割り算のなかに小学校でならう計算操作のほぼ全体がくみこまれているからです。

5年生の終わりから6年生に入って、このつまずきをとりもどすのに長女は大へん苦労しました。3, 4年生の教科書のおさらいからはじめて、基本的な事項をもういちど理解しなおし、練習します。つらい毎日が続きました。私も妻も仕事で忙しかったので、いっしょに住んでいた母がそれを手伝ってくれました。ほぼ1年これが続いて、ようやく人並みに算数の学力をとり戻せたのは6年生も終わりになったころでした。



この娘さんが中学受験をめざした勉強をされたら、たちまちお手上げの状態になったことでしょう。いっぽう、基礎的な計算能力をしっかりと磨いていたなら、様々な算数課題を解くプロセスで必要となる数処理で手間取ることがなく、快適に算数的な思考を押し進めていくことができます。さらに大人になってから仕事や生活で出会う無数と言えほどの計算処理場面においても難渋することがありません。**基礎計算力は、算数や数学が苦手かどうかとは別次元の必須能力**であり、児童期までにしっかりと取り組んでさえいれば、その恩恵に一生浴することができるでしょう。



お子さんが小学校の1~3年生であれば、**数の計算処理が正確に素早くできるかどうか**、改めて確かめてみてください。素材は学校で配られるドリルなどで構いません。つまずきが少しでも見られるようであれば、今のうちにしっかりと対処しておきたいですね。



小学校高学年になると、同じようなことを延々と繰り返すような作業を面倒がるようになります。しかし、児童期前半までの子どもは、大人(特に親)が「**がんばったから、ずいぶん上手になったね!**」などとほめると、いくらでも繰り返して取り組みます。このような時期こそ、計算スキルを徹底して磨いておきたいものです。基礎計算力の習熟が児童期前半までの重要な必須課題であることの意味は、そういうところにもあるのですね。

かけ算九九は、
上がり九九、下がり九九、
途中九九が全て自在に
言えたら合格!

いんいちがいち、いん
にがに、いんさんが...

くくはちじゅういち、
くはしちじゅうに、くし
ちろくじゅううさん...





ただし、一口に計算といっても、それは技能の習熟だけを意味するわけではありません。**問われている場面での計算の意味**が理解できないと、簡単な文章題にも躓いてしまいます。ただ機械的な計算練習を繰り返すだけでは真の計算力は身につけません。数には順序や量、重さ、距離など、いろいろな要素があります。一つひとつの課題で提示されていることを現実場面に照らし、**自分で式をたてる勉強も大切**にしていきたいですね。**計算力には、操作のスキルと計算の意味理解があり、この両方が身につくこそ確かな計算力が身につく**と言えるのです。



家庭学習研究社の低学年部門では、会員の子どもたちの全てが確たる基礎計算力を身につけられるよう、「**計算練習帳**」というオリジナル制作の副教材を提供しています。上述のような、計算場面の意味を理解して答える力が養えるような課題も含まれています。保護者におかれては、「計算なんて単純だからだいじょうぶだ」と思わずに、**お子さんの取り組みをときどきは実際に見守り、うまくやれているようなら大いにほめ称え、上達を喜んであげていただきたい**ですね。このような経験を通して、確かな計算力を養っておけば、高学年に進級してからの算数学習で困らないだけでなく、先々の人生の様々な場面で役立ってくれることでしょう。

